

# すゞろごと

樋口一葉

青空文庫



## ほととぎす

ほととぎすの声まだしらねば、いかにしてか聞かばやと恋しがるに、人の訪ひ来て、  
 「何かは聞えぬ事のあるべき。我が宿の大樹にはとまりてさへ鳴くものを、夜ふけ枕にこゝろし給へ。近く聞く時は唯一こゑあやしき音に聞きなされるれど、遠くなりゆく声のいと哀れなるぞ」と教へられき。

時は旧き曆の五月にさへあれば、おのが時たゞ今と心いさみて、それよりの夜なく目もあはず、いかで聞きもらさじと待わたるに、はかなくて一夜は過ぎぬ。そのつぎの夜もつぎの夜もおぼつかなくて、何時しか暁月夜の頃にもなれば、などかくばかり物はおもはする、いとつれなくもあるかなと憎くむく猶まつに弱らで一夜を待あかしに、あゝる暁のいとねぶうて、物もおぼえずしばし夢結ぶやうなりしが、耳もと近くその声あやまたず聞えぬ。まだ聞かざりし音をさやかに知るは怪しけれど、疑ひなきそれと枕おしやりて、居直れば又一こゑさやかにぞなく。故人がよみつる歌の事などさま／＼胸に迫りて、ほととぎすも涙もこぼれつべく、ゆかしさのいと堪へがたければ、閨の戸おして大空を打見あ

ぐるに、月には横雲少しかゝりて、見わたす岡の若葉のかけ暗う、過ぎゆきけんかげも見えぬなん、いと口惜しうもゆかしうも唯身にしみて打ながめられき。

明ぬれば歌よむ友のもとに消息して、このほこりいはゞやとしつるを、事にまぎれてさて暮しつ。夜に入れば又々鳴きわたるよ。こたびは宵より打しきりぬ。人の聞かせしやうに細やかなる声はあらねど、唯ものゝ哀れにて、げに恋する人の我れに聞かすなど言ひけんも道理ぞかし。おもふ事なき身もと、すゞろに鼻かみわたされて、日記のうちには今宵のおもふこと種々、しるして、やがて哀れしる人にとおもふ。

かくて二日ばかり、三日の後なりけん、ゆくりなく訪ひ来し友あり。いと嬉しうて、今やこの事かたり出ん、しばししてや驚かすべき、さこそは人の羨やましがるべきをと、嬉しきにも猶はゞかられつゝ、あらぬ事とも言ひかはすほどに、折しもかの子規軒端に近う鳴く声のする。「あれ聞き給へ。此宿はこゞゐの森にもあらぬを、この夜頃たえせず声の聞ゆるが上に、ひるさへかく」と打出したれば、友は得ときがたきおもゝちして、「何をかのたまふ」とたゞに言ふ。かくくと語れば、「そは承けがたき事」と打かたぶき打かたぶきするほどに、又も一声二声うちしきれば、「あれが声を郭公とや。いかにしてさはおぼしつるぞ、いとよき御聞きざま」と、友は口おほひもしあへず笑みく

つがへる。「いつもあかつき暁よりなきいで、夕ぐれまでは御おん軒のきのものなるを、いかにしてさは聞き給ひけん、物ぐるほしくもおはしますかな」といよく笑ふに、「さにはあるまじ。いかで山がらすをさはおもふべき。あの鳴なくね聞き給へ、よもあやまらじ」と不い審ぶかしようなりて言へば、「月夜に寝ほうけて鳴なきいづつ出る時は常の声とも異ことなりぬべし。今のなく音ねは何かは異ならん。あれ見給へ、飛びゆく姿もさやかなるを」と指さゝれて、あはれこのほと子と規ぎいすつも初音はつねをなく物になりぬ。覚さめずは夢のをかしからましを。



# 青空文庫情報

底本：「全集樋口一葉 第二巻 小説編二（復刻版）」小学館

1979（昭和54）年10月1日第1版第1刷発行

1996（平成8）年11月10日復刻版第1刷発行

入力：もりみつじゅんじ

校正：浅原庸子

2003年3月23日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

# すゞろごと

樋口一葉

2020年 7月17日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>